

あけましておめでとうございます。

只今ご紹介いただきました日本鉄源協会の宮本でございます。

今年は大変うららかで天気も良く素晴らしいお正月でした。昨年のワールドカップで活躍したラグビー選手が多くテレビ番組に出ていました。こうしたことは私も昔、ラグビーをやっていたので大変嬉しいのですが、反面、オリンピックに向けて練習しなくて良いのだろうかと思った次第です。それはさておき、これだけラグビーが支持されファン層が広がったことは、先ほどのお話にもありましたがラグビー特有の「ONE TEAM」や「One for All, All for One」がクローズアップされたことであろうかと思えます。加えて日本チームがあれだけの大躍進を遂げたのは Diversity そして Hybrid による効果であろうかと思えます。また南アフリカが優勝しましたが、少し前の映画である「インビクタス／負けざる者たち」にもありましたように、アパルトヘイトを克服するために黒人、白人が一緒になって取り組んだわけですが、ラグビーにおいても同様にこうした一体化の精神が強さを発揮させたのだと思えます。

先ほどから話が出ていますが、世界経済は厳しい状況にあります。米中貿易摩擦が長期化することで様々なところに影響が出てきています。欧州も不安定です。加えて米国、イランを含めた中東情勢があり全体的に不透明な状況です。

とりわけ製造業はなかなか厳しいのではないかと思います。米中貿易摩擦によるものと捉えていますが、中国は自国経済を支えるために大々的にインフラ投資を行なっています。従って原料を高いレベルで輸入する状況が続いており、そのため、高炉の主原料が高止まりしています。一方、製造業が弱いため製造業向けの鋼材価格は軒並み下がっています。「製品安、原料高」という状況となっており、先ほど普電工の方からお話がありましたが、高炉業界にとってはもっと厳しい状況です。これに対しては、当然ながら国内についてはきちんとスリム化しながら海外を伸ばしていくことであり、構造改革をスピーディーに行なって建て直していかなければなりません。

地球環境問題が大きな課題です。皆様ご存知の通り、鉄はライフサイクルで見ますと環境に優れた製品であります。このことをきちんと PR していきたいと思っております。アメリカでも電炉が自動車の鋼材を製造していますが、これは良質のスクラップを集めてきて初めて可能なことですし、北欧ではスクラップを集めて、そこからデリバリーするしくみが整備されています。その意味で日本は非常に進んでいますし、今後も皆様と連携し取組んでいきたいと思えます。

私は日本製鉄におりますが、広畑製鉄所に電炉を作ることを決めました。先ほどのラグビーチームではないですが、Hybrid を考えていろいろやっっていこうと思っています。

先ほどよりスクラップの品質の高度化が話題となっていますが、我々は鉄鉱石を購入して製品化し、様々な産業に提供しています。先ほど触れました通り、鉄のライフサイクルを最大活用するために、いかにしてリサイクル率を上げていくのかがポイントですので今後も従来通り、皆様とタッグを組んで連携を深めていきたいと思っております。

最後になりますが、本日お集まりの皆様のご繁栄、皆様のご健康を祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。